

大寺薬師の薬師堂（収蔵庫）の後ろの道を三十メートル登ると大寺山古墳があり、その古墳上の自然石に秋葉権現が祀っております。

御祭神は赤石山脈の最南端天竜川の上流に位置する標高八六六mの秋葉山を御神体山中として崇敬されている秋葉山本宮秋葉神社内に祀られている火之迦具土大神という神です。

この火之迦具土大神は別名三尺坊と言われ、一般に秋葉山、あるいは秋葉大権現などと呼んで、防火鎮護の神として、庶民の厚い信仰を集めています。

秋葉神社の建立は、今から凡そ一三〇〇年前和銅二年（西暦七〇九年）と伝えられています。

御祭神の火之迦具土大神は、火の幸を恵み、悪火を鎮め、火を司り給う神様であります。

大寺山の秋葉さんも往古から火よけの神として林木の庶民に厚い信仰を得ておりますが、昔から現代まで林木の消防団が祀りを行っています。

明治の初めの頃、消防団員が秋葉さん祀りをするため、大寺山を掃除しようと頂上付近で陥没を見つけたのが、大寺山古墳の発見です。

祭祀日は旧暦七月五日。

当時は、大寺薬師境内には出店が立ち並び、相撲大会やいろんなイベントが行われ、たいそう賑やかな祭りが行なわれていたと古老が話してくれました。

昔は大寺薬師（万福寺）の住職がお経を唱えていましたが、万福寺の住職が不在になってからは、平田町の極楽寺住職によって祭祀がなされております。

